

しあわ 幸せの メモ

ジュリアン・テニー・ドーマン
(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

「みなさん、クラスへようこそ。」
ライリーは新しい先生を見上げてにっこりしました。先生は、ほかの教師よりもわかく見えます。先生が話すと、声がかすれていました。先生はせきばらいをして、話を続けました。

「わたしはベレットです。」
一人の生徒が手を挙げて、「先生になったばかりですか?」とたずねました。

「はい。大学を卒業したばかりで、みなさんが最初の生徒です。」
それから、ベレット先生は、これからクラスで学ぶことについて説明しました。声が小さく、ところどころ、よく聞こえませんでした。

うしろで子供たちがささやき合う声が聞こえたので、ベレット先生の話がさらに聞きにくくなってしまいました。でも、ライリーは一生懸命に耳をかたむけました。ベレット先生がライリーを見ると、ライリーはにっこりしました。

そのばんの夕食のときに、お母さんはライリーの学校の初日についてたずねました。

「クラスも先生も大好き」とライリーは言いました。「新米の先生が一人いるの。少しきんちょうしてたわ。何人かの子供たちからかわれた。」

「先生でもきんちょうすることがあるんだよ」とお父さんは言いました。
お母さんはにっこりしました。「ライリーがその先生をおうえんしてくれてうれしいわ。」

次の日、ライリーはろうかか何人かの子供たちが話すのを聞きました。
「ベレット先生の授業があるよ」と、そのうちの一人が言いました。「でも、昨日は声も聞こえなかった。」

「あの先生の声、かすれてたよね?」
「長い一年になりそうだね」と別の子供が言いました。みんな声を上げて笑

「先生でも
きんちょうすることが
あるんだよ」と
お父さんは言いました。

いました。

ライリーは、先生もきんちょうするというお父さんの言葉を思い出しました。昨日はベレット先生の学校での初日でした。きっと、かなりこわかったでしょう。お母さんから、先生を元気づけるようにと言われました。どうすれば元気づけられるでしょうか。

ライリーはその夜のおいのりの中で、ベレット先生を助ける方法を教えてください、と天のお父様にお願いました。

翌日、ライリーがお弁当を開けると、中には、お母さんからのメモがありました。「あなたはすばらしい!」と書いてありました。ライリーはにっこりしました。ライリーはお母さんのメモが大好きです。家族はお母さんのメモを「幸せのメモ」とよんでいます。

そうだ! ライリーとクラスメートで、ベレット先生に幸せのメモを書くといいのではないのでしょうか。

ライリーは放課後、クラスメートの何人かを家にまねきました。みんなで、笑顔と星の絵で、大きな明るいポスターをかざりました。それから、ベレット先生の好きなところを書きました。また、すでにベレット先生から学んだことを書き出しました。そして、ベレット先生が自分の先生でよかった、と書きました。

翌日、ライリーと数人の友人は早く学校に行き、ベレット先生の教室のドアにポスターをはりました。それから、何が起こるか見ようと、すみにかくれました。

間もなく、ベレット先生が教室に来て「わあ!」と言いました。ライリーとクラスメ

たちは、ベレット先生がメモを読むのを見ていました。大きな笑みが顔に広がりました。

ライリーは先生のうれしそうな様子を見て、自分もうれしくなりました。ライリーはにっこりして、友達にハイタッチをしました。

かれらが立ち去ると、だれかが「今日のベレット先生のクラスに行くのが待ち切れない!」という声が聞こえてきました。

ライリーも待ち切れませんでした。●
このお話は、アメリカ合衆国での出来事です。

イラスト/クローラ・テレル

